



小豆のは種について

☆は種のポイント

「適期は種の励行と、は種深度3cm程度を確保！！」

- ・早朝のは種を避け、地温が確保されてからは種しましょう。
- ・土壌水分が多い時は、は種を避けましょう。
- ・気温（地温10℃以上）が上がり、好天の日には種しましょう。
- ・深植えは、地温が確保できません。覆土は3cm程度には種機を調整しましょう。

安定した収量・品質を確保するため、は種時期は5月下旬から6月上旬まで。秋の初霜を考慮すると、は種晩限は6月10日頃です。

品 種	は種時期	株間と10aあたり株数	
		18cm	21cm
エリモ167 しゅまり	5月下旬	8,418株	7,215株
アカネダイナゴン とよみ大納言	6月上旬 6月上旬		

※10aあたり株数：うね幅66cmで計算。

*年によって種子の大きさ（百粒重）が異なります。は種板の穴の大きさを確認しましょう。

施肥例：S644またはBBS643 50~60kg/10a

※地力により調整する。また、窒素過多は根粒菌の着生を悪くするので避ける。

※初期生育が劣るほ場では、リン酸資材を増肥します（例：ダブリン20kg/10a程度）。

☆は種時に使用する農薬例

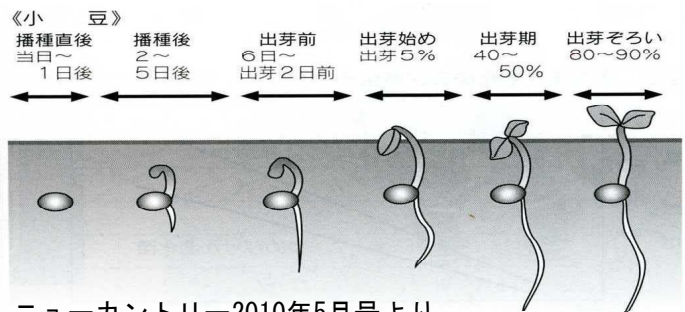
対象病虫害	薬 剤 名	使用方法	使 用 量
タネバエ、苗立枯 褐斑細菌病	粉衣用ペアーカスミンD	種子粉衣	種子重量の0.3%
アブラムシ類 タネバエ	クルーザーFS30	塗沫処理	乾燥種子1kgあたり原液 6ml
茎疫病 タネバエ アブラムシ類	クルーザーMAXX	塗沫処理	乾燥種子1kgあたり原液 8ml

※根粒菌は、種子消毒後に粉衣する。

☆除草剤散布

豆類の除草剤は、使用時期が細かく決められています。

右の図を参考に、各薬剤の使用基準を守って散布しましょう。



ニューカントリー2010年5月号より

○●農薬の適正使用・飛散防止に努めましょう●○